

全日本遊技事業協同組合連合会・理事長

原田實

新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、益々ご健勝で輝かしい平成22年の新春を迎えられましたことを心からお慶び申し上げますとともに、平素からのご指導、ご支援に対しまして、心から厚く御礼申し上げます。

昨年に於ける前年から續く世界的な経済不況等により、先行き不透明な空気が蔓延するなか新年を迎える明るい一年のスタートと言えるものではありませんでした。

昨年1月に開催した新年全国理事会においても、こうした苦しい業況の中、全国のホールをどのように導いていくべきなのか、全日遊連の理事長という重責に、身を引き締める思いで挨拶させていたきました。そんな年明けから始

まつた昨年ではありますか、私たち全日遊連、また業界全体にと

て多くの前進がありました。
まず、昨年の年明け早々に、私が予てから掲げている業界全体の総親和という方針に則った取り組みが1月30日に開催したパチンコ・パチスロ産業賀詞交歓会にお

より実効的に推し進めていきたいと思っています。また、12月には、業界関係団体で諸問題を共有し、心を一つにすべく、2年ぶりに21世紀会議を開催いたしました。

次に、長年の懸案でありました、遊技産業健全化推進機構の経費負担について、全日遊連が11月に開催した理事会の決議により、暫定的な状態に終止符を打ち、一定の方回性を出すことができました。これもひとえにそれぞれの痛みを超えて、業界総親和に向けたご理解をいただいたものと受け止めています。

全日遊連の支援により設立したばかりの依存問題相談機関リカバリーサポート・ネットワークも、昨年10月にNPO法人化し、またそれを機に他団体への支援要請を行い、一部団体からはともに支援をしていこう、との声をいたたいております。依存問題は、ホーリーのみで対応すべき問題ではありません。将来的には、各団体から賛同をいただき、業界全体で費用を負担し、同機関の活動を支援してゆきたいと考えております。

融環境改善に向けた取り組みも、社会の動きに呼応して、全ホールを対象とした信用保証と公的融資の獲得

を目標として、弛まず進めてまいります。この問題は、単なるホール経営の安定のみならず、私たちパチンコ店を営む者の誇りとアイデンティティに関わる重要な問題であります。

我々の業にも今後様々な形で影響がでてくることが予想されます。しかしながら、私たち遊技産業は国民的大衆娯楽として、健全経営により一般社会から愛され親しまれるべく、努力を続けてゆくことに変わりはありません。今日遊連という組織一丸となつた施策があつてこそ社会から信頼を得、業界の安定につながつてゆくのだと思います。

昨年に比べ、廃業店舗数の推移もどうにか下げ止まつたようです。また最新のレジャー白書によると、平成20年は、パチンコ参加人口、参加率、年間の遊技回数、参加希望率など、いずれも前年の調査に比べ回復しております。

この流れを今年につなげ、今年こそ私たちにとって、輝かしい年になるよう、皆さまのご協力、ご支援をおねでお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、私からの年頭の挨拶とさせていただきます。